



「ちとせ」が変われば「みらい」が変わる

ちとせみらい通信

第2 定例会補正予算特別委員会質疑

1 総務費について

- (1) コミュニティセンター費

2 民生費について

- (1) 特定教育・保育施設給付事業費
- (2) 子育てのための施設等利用給付事業費

3 商工費について

- (1) 商店街観光消費促進事業費
- (2) 観光機関連携業務経費

4 教育費について

- (1) スポーツ施設備品整備事業費

6月27日、第2定例会補正予算特別委員会で質疑を行いました。前号でもお知らせしたとおり。本年は千歳市長選挙の年に当たるため、当初予算は骨格となったことから、実質的には今回の補正予算特別委員会が、今年度の政策的予算を審議する場になります。

私は4款6目について質疑を行いました。今回は特に民生費の子育て関連の費目に重点を置いて質疑を行いましたので、その一部を抜粋してお知らせいたします。

2-(1)特定教育・保育施設給付事業費、(2)子育てのための施設等利用給付事業費(一括質疑のうちの一部)

【質疑の背景】保育所費は第1期子ども・子育て支援事業計画の進捗に伴い、平成27年度以降、予算額がうなぎ上りに増えています。平成26年度には11億8,567万7,000円だった予算額が、今回の補正予算に計上された額を含む令和元年度予算では27億5,400万円と、6年間で2.32倍という数値になっており、昨年度から生活保護費を抜いて民生費では最大の予算目となっています。子どもの出生数が減り続け、共働き世帯の増加と共に待機児童の問題が取りざたされる昨今、子供を産み育てやすい環境を醸成するのは、日本という国を持続させていくためにすべての自治体を取り組まなければならない課題であり、まちの活力を維持する観点からも、生産年齢人口の増加を図る上で大変重要な施策と私も認識しています。しかしながら、いかなる行政施策においても、その費用対効果についてはきちんと検証されなければなりません。地方自治法の第2条第14項では、「地方公共団体は、その事務を処理するに当っては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない。」と規定されています。これだけ増加した保育所費の用途によって、その成果と利用者である子育て中の市民の満足度がどれだけ向上しているのかという点が非常に気になり、今回の質疑に至りました。

(質疑の途中から) Q 保育所費として、単年度で27億円という多くの予算をつけているが、平成29年度の実施状況等報告書を見ると、3ページのところに、計画においては、児童人口、保護者満足度などといった全体的な数値指標(アウトカム指標)を設定していませんという記述がある。なぜ、これだけの予算を使う事業でありながら、アウトカム指標を設けないのか、大変疑問に思うが、その理由を伺いたい。

《担当部長答弁》子ども・子育て支援事業計画の全体に係る成果指標についてですが、第1期計画の推進に当たっては、国の基本指針に基づき、各年度の実施状況や、これに係る費用の使途、実績等について点検、評価を行って公表することが義務づけられている。このことから、第1期計画に掲げた138の個別施策については、進捗状況を定量的に評価するため、成果指標を設定し、実施状況を4段階に分けて評価し、子ども・子育て会議において、毎年、施策ごとの点検及び評価を行い、必要に応じて、対策を講じてきたところである。ご質問の、計画全体の成果指標については、子育て支援施策が大変多岐にわたっておりまして、多様化するサービスの提供を一元的に成果指標で評価するのは難しいことから、全国の自治体の多くが本市と同様の取り扱いと伺っておりますが、本計画の全体の成果指

標の設定につきましては、今後の検討課題として調査研究をしてみたいと考えている。

Q 今、施策が非常に多岐にわたるので、なかなか指標が設けづらいという答えだった。もう一度言うが、計画においては、児童人口、保護者満足度などといった数値指標を設定していないと書いてある。ここに書いてある児童人口と保護者満足度こそがまさに全体の成果指標ではないか。児童人口はとれないのかといたら、1歳ごとの児童人口の集計をやっている。どこのまちでも公表されていると思うが、それですぐにつかめるし、保護者満足度についても、アンケート結果に出ている。

私がこのアンケートを見て驚いたのは、50%以上という回答率の高さ。今どき、アンケートで50%を超える回答率というのは見たことがない。まちづくりアンケートなんかを出しても、10%から20%の間ぐらいしか返してくれないと思う。このアンケート票も見たが、非常にボリュームのあるアンケートに対して、半数以上の方がしっかり回答している、それだけでも、乳幼児を抱える世帯の子育てに対する関心が非常に高いことがわかる。それで、27ページに書いてある満足度を見ると、施策によってばらつきがあるが、10.3%から、高いもので48.6%という範囲である。この満足度こそアウトカム指標だと私は思う。市のほうでは、10%とか48%だから低いというふうに思われているのかもしれないが、ここに書いてある以上、それが事実で、公表されているわけだから、勇気を持って、第1期計画の満足度はここまでだった、さらに満足度を上げることが第2期計画の目標だという形で、次をスタートさせるのが正しいのだろうと私は考える。

それで、このアンケートに答えてくれたのは、ほとんどお母さんなのかもしれないが、お母さん方に、今どんなことが足りないと思うかと生で直接聞き取りをして、そのギャップを埋める作業をやっていけば、必ず満足度は上がるだろう。それが一番確かなことだと思う。次の計画の策定がもう始まっているので、できたら、この段階でやっていただきたい。これはお願いである。

最後の質問になるが、現在着手している第2期計画策定に際して、保育定員の拡大だけではなく、ほかの事業においても、明確にわかる成果指標をぜひ示していただきたいと思うが、ご所見を伺いたい。

《担当部長答弁》 第2期計画の策定に当たっては、より客観的で市民にわかりやすい個別施策の成果指標の設定や評価のあり方について、よく検討してみたい。

このことは、子育て施策だけじゃなくて、これから策定が始まる次期長期計画もそうだが、成果指標として、庁内で物差しを統一することが非常に大事だと考えているので、もう一度、そこのところをよく協議され、成果指標を市民に示す意義と、市民との共通認識及び対話を図っていく上での物差しだという思いをぜひ浸透させて、第2期の個別計画の策定に活かしていただければとお願いして、終わりたいと思う。

市政や議会に関するあなたの疑問やお困りごとを是非北山けいたにお聞かせください。



メール: mail@kitayama-keita.com

ホームページ: <http://kitayama-keita.com>



「北山けいた」は議会議員も公僕であり、市民の御用聞きであるべきと考えています。議員としての取組みをホームページやブログなどで発信しています。

また、私の考えに賛同して一緒に行動していただける方を広く募集しております。

お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。